

2020

数字から見る
日本

今月の提案 Vol.80

将棋界の期待、 藤井聡太・新棋聖誕生

～史上最年少、17歳11カ月で「棋聖」タイトルを獲得～

2020（令和2）年7月16日（木）、東京で連日、新型コロナの最多感染者数が更新される中、爽やかな報せが日本中を飛び交った。

将棋界の大きな期待の星、藤井聡太七段が、第91期棋聖戦第4局で渡辺明棋聖に勝って3勝1敗でシリーズを制し、タイトル獲得最年少記録を17歳11カ月で更新した。対戦相手である渡辺明棋聖九段は棋王、王将の二冠のタイトルホルダーであり、タイトル通算獲得数は歴代5位で、永世竜王・永世棋王の資格（就位は原則引退後）を保持しているという現役棋士で最強との呼び声も高い相手である。

勝負が決まった第4局は、序盤から渡辺九段が自ら敗れた第2局を再現するという奇策でスタートしたが、終局後の会見では、「読めていない手が出てきた」「今回、藤井さんと初めて番勝負（タイトル戦のこと）で戦ってみて、内容的に負けている。すごい人が出てきたなという感じです」と述べている。

また自身のブログで、この対局を振り返り「負け方がどれも想像を超えているので、もうなんなんだろうね、という感じです」と記している。さらには「今後に向けてという点ではこの指し方を真似するのは無理なので、自分の長所を生かして対抗できる策を見つけるしかないと思いますが、（それが上手くいったのが第3局）勝ちパターンがそれしかないのでは厳しいので、次の機会までに考えます」と綴っている事からも想像以上の強さを発揮しているとも言える。

振り返ってみると、藤井新棋聖は、デビュー時から絶えず「最年少記録」を塗り替え、周囲を驚かせてきた。以下、その足跡である。

これらの戦績を見ると、今回の棋聖タイトル史上最年少獲得も当たり前のように思われる。さらに現在、史上最年長でタイトルを獲得した木村一基九段と王位戦を同時並行で戦い、本稿執筆時点（7/20）で既に二連勝しており、このタイトルを獲得した場合は、八段昇進であり、ここでも最年少記録が期待される。



最年少記録

- ・四段昇段（プロ入り）…14歳2カ月
- ・初勝利…14歳5カ月
- ・中学生棋士の中での通算50勝…15歳4カ月
- ・一般棋戦優勝…15歳6カ月
- ・全棋士参加棋戦優勝…15歳6カ月
- ・六段昇段…15歳6カ月
- ・七段昇段…15歳9カ月
- ・通算100局…16歳0カ月
- ・永世称号獲得者・中学生棋士の中での通算100勝…16歳4カ月
- ・一般棋戦連覇…16歳6カ月
- ・タイトル挑戦…17歳10カ月20日
- ・タイトル獲得…17歳11カ月

藤井七段は、最年少記録以外にも次のような記録も残している。

- ・最多連勝…29連勝
- ・勝率8割以上…3年連続（史上初）
- ・竜王戦ランキング戦優勝…4期連続（史上初）

今後の活躍がますます期待される。

【参照】

ウィキペディア 藤井聡太

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%97%A4%E4%BA%95%E8%81%A1%E5%A4%AA%E3%82%BF%E3%82%A4%E3%83%88%E3%83%AB%E3%83%BB%E6%B0%B8%E4%B8%96%E7%A7%B0%E5%8F%B7>

渡辺2冠「読めていない手が出てきた」／一問一答 日刊スポーツ

<https://www.nikkansports.com/general/nikkan/news/202007160000954.html>

棋聖戦第4局。- 渡辺明ブログ - Goo ブログ

<https://blog.goo.ne.jp/kishi-akira/e/95a8141405ad0b4e8953b10cc23abaa4>

美楽からの一言

2017年12月に「永世7冠」を達成した天才・羽生善治九段。藤井七段は、その羽生九段以来の天才と呼ばれているが、もしかしたら、それをも超える存在になるかもしれない。今後の活躍から目が離せない。